高知大学共通教育広報誌［パイプライン］

PipeLine

43
2014.6

特集

共通専門科目

No.43 Contents

特集「共通専門科目」	P1~8
共通教育 自己点検・自己評価部会の活動	P9～10
Information 共通教育実施機構からのお知らせ	P11

特集

共通専門科目

「共通専門科目」授業の感想、意義、枠組み、受講にあたってのアドバイス等

Part I 学生記者から

人文学部
人間文化学科
（平成２６年３月卒業）
古川恭子

共通専門科目についての意見・意義

「『共通専門科目』ってなんだっただろうか」。
これが四年間講義を受けてきた私の正直な感想だ。「共通専門科目」ともう一つ「教養科目」があったことは認識しているが、私の中では区別がなかった。

受講した感想として、教養科目は高校で学んだことの発展形であることはわかった。しかし、教養科目と共通専門科目の間の違いは気がつかなかった。もし区別をつけるとしたら、内容ではなく、それは単位の数の上での違いでしかない。

また学生の中には「とりやすい講義を選択する」という人がいる。このような人たちにとっては尚更区別などないのではないだろうか。なぜならば内容ではなく、単位としてしか講義を認識していないからである。

私が履修した共通専門科目を振り返ってみると、どれも興味深かったことは確かである。特に学生に考えさせることの多かった講義は本当に面白かった。もう少しそういう講義が増えればいいのではないかと思う。

人文学部
社会経済学科4年
湯城舞子

人文学部社会経済学科の基礎科目には法律学、経済学、政治学、社会学などがあります。色々な専門の基礎科目に挑戦できることは社会経済学科の一つのメリットであり、多方向への視野を広げることで大学生としての教養を深めることができると思います。

私は漠然と社会現象一般に興味があったので社会経済学科に入学しましたが、私のようにどのような学問を学んでいきたいのか、あるいは興味がある学問があってもそれがどのようなものか曖昧なまま入学してこられる学生さんも多いと思います。そういう人でも、いろいろな基礎科目を受講して専門的な分野を学ぶことで、自分の得意分野や好きな専門領域を知ることができると思います。私は2年生のときに民法Ｉを受講して民法に興味を持つようになり、現在は民法のゼミナールに所属しています。

新入生の方も在校生の方もぜひ様々な科目に挑戦して欲しいと思います。思いがけないところに、学問との出会いがあるものです。

教育学部
生涯教育課程４年
長尾美貴子

共通専門を学ぶことで…

共通専門科目は、高知大学に存在している多くの学部に関わることの出来るものであると考えている。

私が受講した一部を紹介すると、「言語表象論入門」は、資料・映画等様々なものを利用して中国やアメリカ、そのほかの国の映画や物語の魅せ方や特徴、どうしてそのようになったのかを各国の背景を通じて学ぶことが出来た。また「生活環境学概論」では、手芸・ジェンダー・法律・地球環境の現状・身近に潜む危険生物やペットについてなど多岐にわたり学ぶことが可能であり、自分に出来ることやわかるものの範囲が広がったように思える。さらに、「考古学研究の基礎」、「芸術文化概論」などの美術・音楽に関わるものや、「生涯学習論」といった教育に関わることの出来る講義もあるため、多くのものを学んでみたいという人にお勧めしたい。

他分野に興味が無い人であっても自分とは関わりの少ない分野を学ぶことで改めて自らの専門分野について考えることが出来ると思うし、それを生かすことでより深い結果に繋がると思うため、是非学んでこれからの自分の糧にして欲しい。

教育学部
生涯教育課程４年
植竹莉茉

共通専門科目の中の基礎科目は教養科目と大きな違いは無いように感じました。学問の基礎的な部分を学ぶという点では同じであるように思います。お勧めの授業は、「環食同源論入門」です。食や森林などの環境問題などが基礎から学べます。様々な分野の知識を得られ、オムニバスなので毎回新鮮な気持ちで授業に取り組めます。二つ目に「現代の企業行動」です。過去の事例から、どうしてその企業が発展したのか読みとっていき、成功するにはどうしたらいいのかが少し理解できました。

キャリア形成については、教員免許や学芸員資格に必要な授業が含まれており、重要な科目であると思います。特に、教育学概論や教育心理学概論では、教育をする意味や子どもの発達の過程を学ぶので、どうして教育が必要なのか根本的なところが学べます。また、教育学の歴史や哲学者も学び、過去を踏まえた上で今後の教育をどうしていくかを考えていく授業であると思います。

理学部
応用理学科４年
神原里枝

共通専門科目の授業は、所属する学部内の様々な科目を学ぶことができます。なので、中学や高校で学んだことのない科目でも受講し学ぶことにより、所属する学部内の知識を幅広く得られると思います。

私自身大学に入学するまでは、高校で学んでいた生物を学ぶと決めていました。しかし、大学に入学して共通専門科目の「化学概論Ⅰ」や「化学概論Ⅱ」を受講し、化学の面白さに気付くことができ、化学コースに進むことを決めました。そのように、自分の知らなかったことに気付き、選択肢を広げるきっかけになると思います。

そして、共通専門科目の授業は少し専門的な内容になります。そのため、毎回の授業の予習・復習などの努力をしなくては、授業についていけなくなります。また、その後の専門的な内容に入っていく上での重要な基盤となるためにそういった努力をし、知識を貯めていくことが重要になってきます。

理学部
理学科４年
池田実咲

共通専門科目について

大学で学ぶ専門科目は高校までの学習よりさらに専門的になります。その専門科目を学ぶ上での準備をする科目が共通専門科目であると私は考えています。

共通専門科目には基礎科目とキャリア形成支援科目があります。基礎科目には概論や実験などがありますが、その中でも特に役に立っているのは基礎生物学実験です。私は生物科学コースに所属しているため、この実験で学んだ具体的な方法やレポートの書き方、実際に器具を使うという経験は、今までの専門科目の講義やこれからの卒業論文に大いに役に立ったと感じています。また、キャリア形成支援科目には教職や学芸員などの科目があります。私は教職の講義を受講しました。実際に体験してその後自分を振り返り今後に生かすという経験ができたように思います。

共通専門科目では、座学や活動によって大学での勉学の基礎を作り上げることができます。どんな講義でも活用できるかどうかは自分次第です。悔いのない大学生活にしましょう。

医学部
医学科２年
山下永理加

共通専門科目を学ぶ意義

共通専門科目には医学英語のように医学に特化した内容を持つものばかりでなく、数理科学、物理学、生命現象化学などがある。

これらは、高校の授業内容と近いものが多いため、医療とは無関係だと感じた人もいるだろう。しかし、全く関係が無いとは言いきれない。物理学の講義では、剛体における力学の応用で人間の足首を用いることがあったし、圧力に関しても、診察に必要な血圧の基礎理論である。応用数理科学では確率を求めるが、それは疾病と検査結果の関係を考察する際に使われる。このように共通専門科目は、講義を通じて基礎医学の原理を学ぶ科目だと考えられ、医学を学んでいくのに必要不可欠な授業なのである。

さらに、高校と同じ内容の授業であったとしても、知識を理解して覚えるだけでなく、それを応用できることが高校と大学での学び方の違いである。共通専門科目を始めとする講義を大切にすることによって、良い医療人になれるのだと信じている。

医学部
看護学科４年
小倉亜実

共通専門科目 ～看護と病態の授業について～

看護学科で学ぶ共通専門科目の一つである「看護と病態」は、疾患を抱える患者さんを身体・精神の両側面から理解するために必要な授業であると私は感じます。私は、約６ヶ月間の高知大学医学部附属病院での看護実習を通し、この授業がいかに大切であったかを実感しました。

疾患を抱える人への看護を考える上で、病気を知ることはとても重要です。その人の身体に今何が起こっているのか、そして今後どのように変化していくのか、解剖学的・生理学的観点を踏まえて考察し、現れている症状を理解することで、その人にとっての安心・安全につながる必要なケアを考えることが出来ます。つまり、病気を知らずして適切な看護は出来ないということです。

病気を理解するのは難しいのではと、私も最初は不安でしたが、この授業は身体の働きの基礎を振り返りながら展開されるので、興味・関心を持ち、疑問を解決しながら学びを深めることが出来る有意義な授業であったと感じています。

農学部
農学科4年
松岡進

共通専門科目とは、各学部の専門教育とは区別されるもので、学部を超えて共通の知識や能力を身に付けることができます。異なる分野に触れ、幅広い知識を学ぶことは社会で求められていることであると思います。

例えば、私の受講した「スポーツ科学概論」では生涯スポーツについて学びました。スポーツ諸科学、スポーツを通して人間関係の築き方、スポーツと健康についての知識を深めました。また、「日本経済概説」では基本的な日本経済の仕組みを学び、社会で必要な知識を身に付けることができました。

このように、共通専門科目では社会において必要最低限の知識を身に付ける上で役に立ちます。学生生活はたくさんの知識を得る場であると思うので、様々な分野の講義を受け、面白くなければ基本的な知識で留めておき、面白ければ積極的に学んでいくことで、将来のやりたいことを見つけることができるかもしれません。やりたいことを見つけるきっかけとして共通専門科目を受講するのも良いと思います。

農学部
農学科４年
木本菜月

この科目は、受講生の学部・学年を問わず、様々な分野の基礎について学べる科目です。高校で学ばなかった分野を学びたい、これから専門的にその分野に取り組まなければならない、という人にとってはとても有意義な科目であると思います。

私は農学部生として入学したのですが、高校で生物をとっていなかったので、これから大丈夫かなと少し不安でした。一年次に「生物学の基礎」という科目を履修し、生物学を一から学ぶことができたので大変助かりました。また、三年次に履修した「海洋生物学基礎実習」では、フィールドに出て、実際の海洋環境について学びました。二年次から専門の授業でやってきたことをフィールドで振り返ることができ、とても有意義で身になる授業でした。

このように、ある未体験の分野に取り組む人にとっては入門的な位置づけであり、ある分野を専門的に学ぼうとする人には振り返りができるという点で、「共通専門科目」はとても有意義な科目だと思います。

P10の答え
「自分が知り、自分が考えた意見を言う」ですね。しかも「自分」と「できる」とがわずかに繋がっています。つまり「自分が知り、自分が考えた意見を言うことができる（授業）」のような感じでしょうか。とてもフレンドリーな授業もあるみたいですね。

特集

共通専門科目

「共通専門科目」授業の感想、意義、枠組み、受講にあたってのアドバイス等

Part Ⅱ 教員から

人文学部
社会経済学科
緒方賢一

共通専門の基礎科目は、一般的、教養的な要素と専門的な要素を併せ持つ科目が多くあります。教養として身につけるべき様々な学問的知識の中にも、やはりなにがしかの専門性はあり、そこを強調したのが共通専門基礎科目ということができるでしょう。また、4年間の学生生活で教養をまず身につけてから専門的なことを学ぶという順序も大切ですが、専門的な内容をより早い年次から学ぶことによって、専門分野をより長く、深く学ぶこともできたほうがよいという人もいます。共通専門科目は１年次から受講可能ですので、そういう人のための専門領域への第1歩としての役割も果たしています。

私が担当している民法Ⅰは、法学を専門的に学びたいと思っている人文学部社会経済学科の1年生には、憲法Ⅰと並んで本格的な法律学の入り口になる科目です。民法Ⅰは民法Ⅱへと続きますが、商法や行政法、あるいは経済法といった領域の基礎的内容も含んでいますので、それらの分野を学びたいと考えている人にとっても第1歩です。また、ほかの学科や学部の皆さんは、教養科目として法を学びたい、あるいは法の世界の専門性の一部を体験したいといった動機から受講しているようです。

講義後に寄せられる皆さんからの感想には、「専門的な内容で難しい」「予習復習が大変だ」といった意見もありますが、「いろいろ考えさせられた」「法学的な考え方も面白い」といった意見もあり、受講目的が違っていても、それぞれの立場でいろいろ考え、学んでくれているようです。そういった多面性も、共通専門基礎科目の長所かもしれません。

最後に一言、講義を開く側として、共通専門科目を受講する際にはぜひ、専門分野の「面白さ」を追求できる好奇心を持って欲しいと思います。好奇心さえ持ち続ければ、その専門分野の良さをいつか体感できると思いますし、「あっ、そうなのか」という瞬間を味わってもらえるよう、こちらも毎回いろいろ工夫しています。

教育学部
田邊重任

道徳教育について

人間は、本来人間としてよりよく生きたいという願いをもっています。この願いの実現を目指して生きようとするところに道徳が成り立ちます。

道徳教育とは、人が生きる上で必要な道徳性を育み、人間としてよりよく生きる力を根本で支える教育ととらえることができます。

本学で開講している「道徳教育」は、教育職員免許法で「道徳の指導法」として、教員免許状授与のための所要資格として求められている履修科目であり、今後、教員になる学生が、充実した道徳教育の実践の基盤となる資質・能力を習得する観点から、道徳教育の原論・歴史や哲学・倫理学などの理論面の理解と学習指導要領の理解や授業展開等の知識・技能を習得するなどの実践的指導力の育成を目指しています。

授業構成上の配慮については、まず道徳教育の意義や目的と道徳性の発達理論についての知見を深めます。さらに、道徳教育の指導理論を理解するために、アメリカの教育学の変遷について考察し、課題や問題点を明らかにするとともに我が国の道徳教育のあるべき姿についての思索を深めます。そして、指導計画を作成し道徳教育を展開することができる実践的指導力の育成を目指します。

「道徳教育って何だろう」という素朴な問いから「どのように道徳教育を展開すればよいか」という実践的指導力を求める声にどう応えればいいのか。私の課題でもあります。

学生が、理論に基づき、確かな実践的指導力を身に付け、教職に大きな夢と希望がもてるよう、私の長年の実務経験を生かし、教職のすばらしさや学校現場の「今」を熱く語りたいと思っています。

理学部
応用化学コース
藤山亮治

大学時代を振り返って

理学部で教育を受け、理学部で教育・研究をした経験しかなく、他の学部の教育内容には疎い私であるので自分の経験を述べてみたい。理学部の共通専門科目として、○○概論，基礎○○実験がある。大学に入って、自分の好きな勉強をやりたいと思っている人が、自分の専門を学習する最初の授業ではないかと思う。ただ、例えば自分は化学を勉強したいのに苦手な数学や物理の○○概論を受講しないといけないだろうと思った人も多いのではないかと予想する。

私の学生の時には共通専門科目という区分はなかったけれども、同じように理学部の専門授業を受ける前（１年生と2年生前期まで）に、同じような概論、実験を受講した。非常に基本的な内容の講義と実験であったと思うが、特に実験そのものに関してはまったく新しい経験で楽しめた記憶がある。もちろん、準備、実験、レポート作成など上手くこなすことができなくて苦労した者のうちの１人であった。今あらためて思い返すと、この苦労したことが苦い経験として専門の授業に対する心持ち、取り組み方のきっかけをつくってくれた気がする。

私は、今、「化学概論II」と「化学の基礎」を担当している。これらの受講生の半数近くは化学を専門にしない。このような受講生にも、化学の基本的な概念と考え方を理解してもらい、高校まで化学は暗記するものとして勉強してきたことを改めて欲しいと願っている。また、これから先、もし物質を取り扱うことがあれば、自ら学ぶ障壁を低くできたらと願い講義している。このような基本的な理解や学ぶきっかけを教授したいと、教員の皆さんは共通教育などでそれぞれの専門科目を講義されている時に少なからず意識されていると思う。

学生の皆さんには自分の専門にこだわらず知的好奇心を持ち続け、自ら学習する習慣を、在学中のできるだけ早い時期に身につけて欲しいと思う。

医学部
看護学科臨床看護学
溝渕俊二

イメージ作りに役に立つ講義を目指して

医学部看護学科の共通専門科目の基礎科目の必修には、10教科あるが、その中の5教科を筆者が担当している。これらの5教科では、人間の身体の構造と働きや、病気に関する観察力・判断力を養うための学習を行っている。その内訳は、1年生通年で「身体のしくみ」、2学期に「身体の働き」が加わり、2年生1学期に「薬の効用と看護」、2学期に「看護と病態」、3年生では1学期に「病態と治療」がある。医学基本領域である解剖学に始まり、生理学、薬理学、病理学、病態学、そして治療学と2年半かけて基礎医学のほぼすべてを網羅する。23年間の外科医としての臨床経験を基に分かりやすい講義を心がけているが、かたよりがあるといけないので、いくつかの講義は現在現役で活躍している附属病院の医師および医療スタッフにお願いをしている。

筆者が講義で最も大事にしていることの一つは、何事に対しても正しいイメージを持ってもらうことである。そのためには、「百聞は一見にしかず」である。教科書を読むだけではイメージできないことでも、きれいな画像、動画を駆使することで、イメージできる。例えば、血液中には細胞成分として、赤血球、白血球、血小板が存在するが、白血球の活躍の場は血管の外である。さあ、どのようにして白血球は血管外に出て行くのか。白血球が血管内皮をすり抜けていく動画を見れば、一目瞭然である。

他の取り組みとして、解剖実習を始めた。1日だけではあるが、医学科解剖学教室に許可を得て、60人を2グループに分けて献体による解剖実習を行っている。また、手術をしている手術室や重症患者が治療を受けている集中治療室に、学生5人1グループとして引率し、実際の臨床現場も見学してもらっている。毎年ほぼすべての学生が希望し参加しているが、看護師の仕事や鏡視下手術などの手術方法がイメージできたようだ。

一人でほぼすべての講義を行うことのメリットは、重要な項目を2年半かけて繰り返し講義できることである。しかし、独りよがりな講義にならないように、看護師国家試験の問題も取り入れながら、日々イメージ作りのツールとなるものを探しつつ講義を行っている。

農学部
尾形凡生

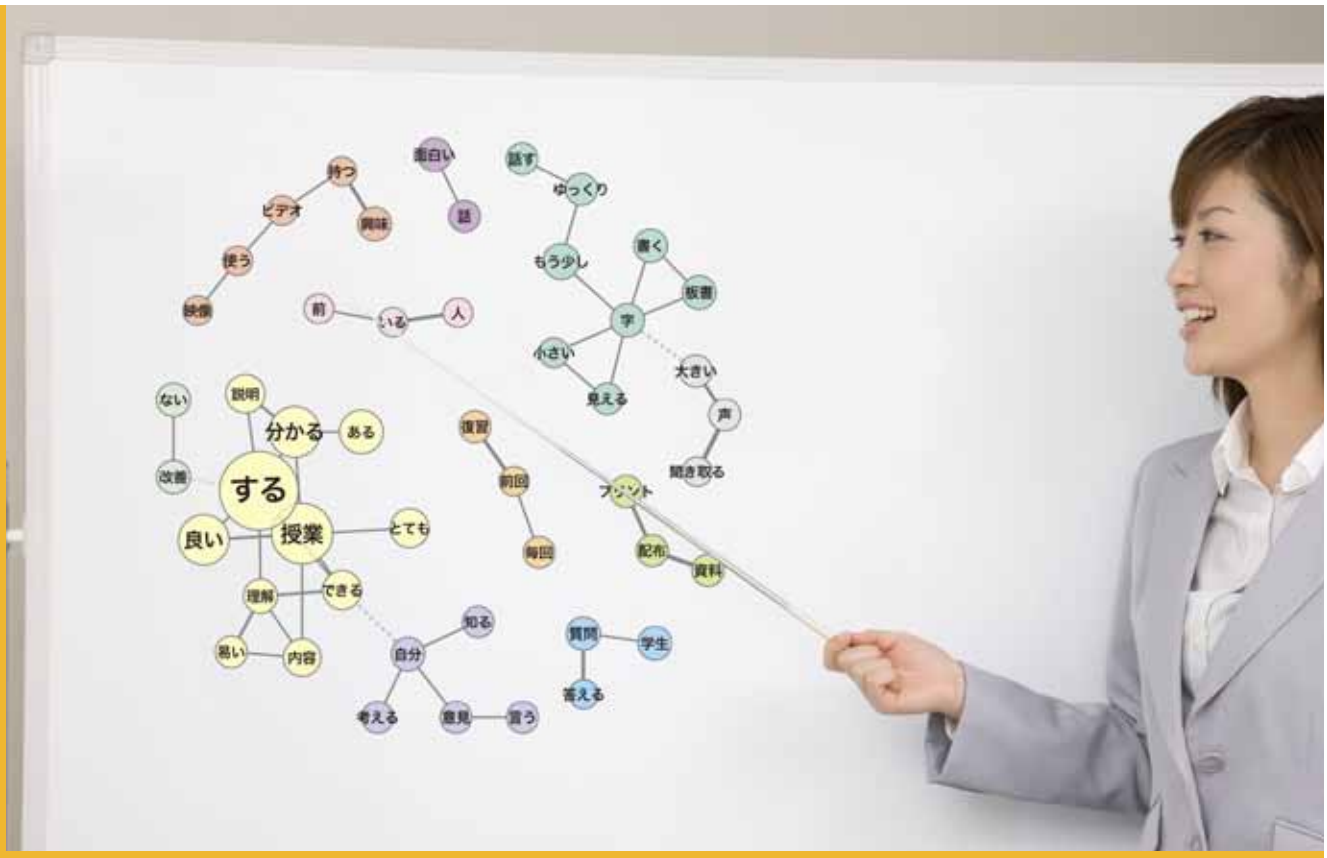
『共通専門』について書くというお題は大変難しい。というのは、私自身、この科目群が担う役割についてかなり混乱しているからである。

共通専門のメインストリームは基礎科目であるが、履修案内には「基礎科目は、各学部の専門的学習に向かうために必要とされる基礎的な授業科目です。」とある。すなわち専門領域の体系の一部として考えねばならない。ここで、学部それぞれが個別に必要と考える科目であるのか、すべての学部に共通して必要な科目なのかで科目の意義付けがまったく違ってくるが、おそらくは後者であり、自由七科のような位置付け（中世ヨーロッパに大学というものがはじめて成立したとき、神学、医学、法学といった専門課程に進む前に文法学・修辞学・論理学・算術・幾何・天文学・音楽の７科目を修めたという）だろうと推察する。

今風な自由七科を立てるとすればどんなものになるだろうか。外国語、日本語、論理学、日本国憲法、歴史学あたりだろうか。生命学なんかも入っていいかもしれない。実は、これらに類する科目が、本学共通専門基礎科目群の中にすでに揃っている。なので『高知大学の自由七科』を設計することは十分可能と思えるし、それが設計できれば大学としてなかなかにカッコいい（ただ、自由度のないお仕着せ教育との批判は浴びるな。多分。）。

現在の共通専門基礎は、科目数がやや多すぎて、これを「専門課程に進むために必須の導入部分」と言うにはややフォーカスがピンボケになっているように感じる。『植物バイオテクノロジー概論』のような全学的専門導入科目になるはずのないタイトルが混ざっているのも変である。全学改組に伴い、共通教育体制も見直されるようだが、その際、あらためて共通教育の体系化が議論されるなら、このような妙な科目はどこかに駆逐されるであろう。

ところで、昨年度から、農学部のおしゃべり好き（講義好き）３人で、物部キャンパスに共通専門基礎科目を１つ開設した。朝倉から通ってくれた数名を含み90名弱が最後まで受講してくれ感激である。担当者は皆、科目名にこだわらず、生命科学・遺伝学研究史に近いところで「いのちのしくみ」を自由に講義した。この授業、『植物バイオテクノロジー概論』といいます。専門基礎としての役割を果たすべく授業を構成するようにしますので、おひまならどうぞ。



共通教育自己点検・自己評価部会の活動

自己点検・自己評価部会長　理学部　松井　透

共通教育自己点検・自己評価部会は、FD 部会と連携・協力しつつ共通教育の各分科会で行われる自己点検・自己評価活動の統括および支援を行う部会です。最近は特に「授業改善アクションプラン」の実施を中心に活動しています。

「授業改善アクションプラン」には様々な方法が準備されていますが、多くの教員は「5 週目・15 週目学生アンケート」を選択しています。教員は授業開始から 5 週目に学生アンケートを実施し、学生の意見を集約・分析した後、授業内容をどう改善していくのが良いかを考えアクションプラン（授業改善計画）を作成します。この時、学生さんの率直な意見が極めて重要になってきます。今回は 5 週目アンケートの自由記述欄について少しお話しをしてみようと思います。

多くのアンケートでは最後に「○○について自由にご意見をお書き下さい」という項目が設けられています。皆さんはしっかりと記入していますか？それとも面倒なのでパスしていますか？平成 25 年度に実施された 5 週目学生アンケートでは図1のような回答結果になっています。

学生さんの自由記述欄未回答率は実に 60% を越えています…ちなみにその他の項目の未回答率は 10% 未満です…自由記述欄はいかに書き込まれていないかが分かります。自由記述欄への回答は、まず何を書くか考え、それを文章にして書き込まなければなりません。確かに面倒です。しかも限られた回答時間に処理しなければならないため、回答率が低いのもうなずけ…いやいや、ちょっと待って下さい。実はこの自由記述欄に書き込まれた内容こそ、授業改善のためのたくさんのヒントが秘められているのです！…正直、中にはかなり辛辣な内容もあり、読んで凹んでしまうこともあり、それが大きな印象として残ってしまいますが…それでもしっかり読みますよ☆

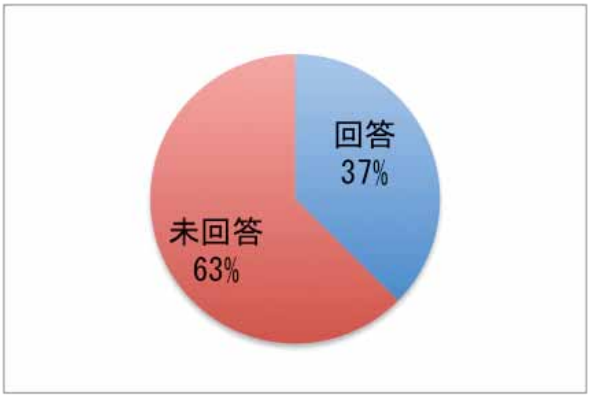
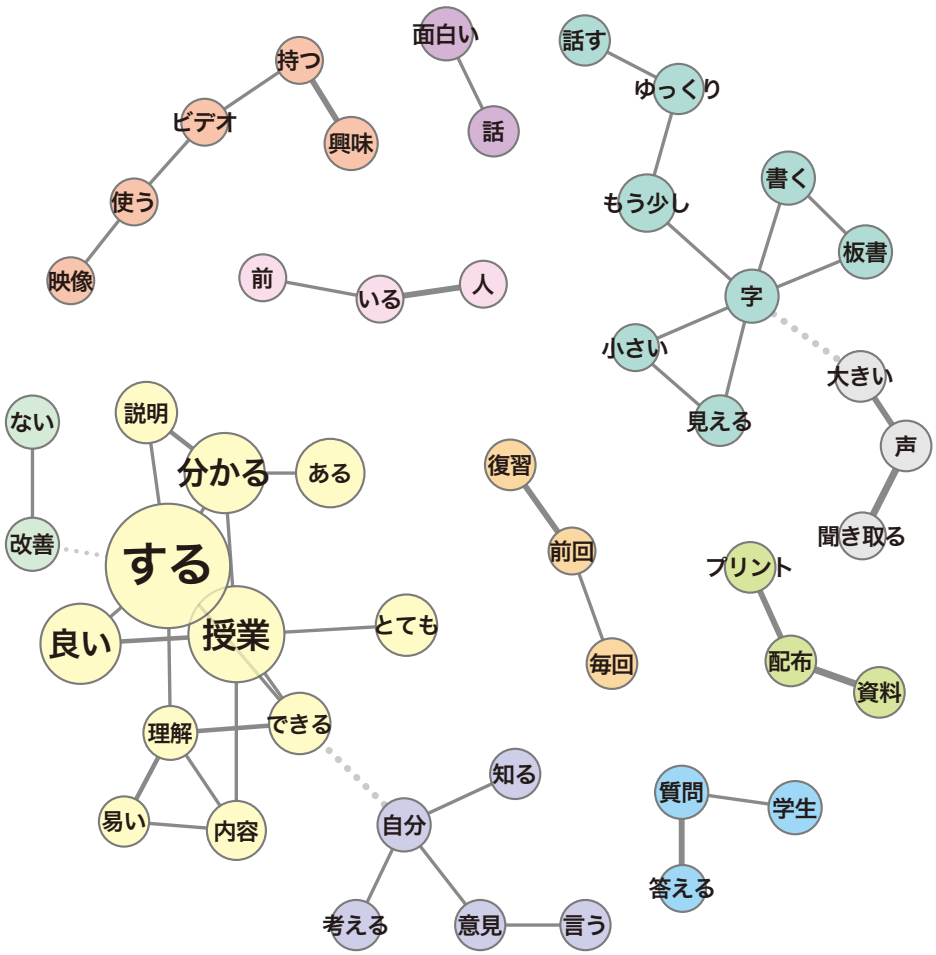


図1. 平成25年度実施の5週目学生アンケート
自由記述欄回答状況

昨年度はどのような回答があったのか、少しのぞいてみましょう。全ての回答を掲載するとかなりの量になりますので、ちょっとしたグラフに変換して掲載します。もちろん個人的な内容や特定の授業にのみ関係する内容は削除しています。



このグラフはどのように作られたのかを簡単に説明してみます。まず回答の文章を意味の分かる最小単位の語（形態素とよびます）に分割します。次にそれぞれの語の出現頻度を計算します。グラフの中で、大きな円に大きな文字で書かれている語は出現頻度が高いわけです。「する」や「授業」がそうですね。次に、ある語はどの語と関係が深いのかを調べます。今回は1つの文章の中で、どの語とどの語がよく一緒に登場するのか、を調べています。そしてよく一緒に登場する語どうしを線で結びます。この時、太い線は一緒に登場する事が極めて多く、細い線はまぁまぁ、破線はごくわずか、という意味になっています。グラフの中で、「説明」と「分かる」が太い線で結ばれています。と言うことは…回答文中で「説明が分かる」のようによく一緒に登場しているわけですね。

グラフから、いくつか語が集まり集団を作っていることが分かります。一番大きな集団は「する」「授業」「良い」「分かる」「理解」「とても」「し易い」などの語からできています。この集団の意味するところは何でしょう？「説明が分かり理解し易い良い授業」のような意味になりそうです。実際、そのような回答が多数あるわけです！他の集団も見てみましょう。「興味」「持つ」「ビデオ」「使う」「映像」という集団は？「ビデオなど映像を使うと興味を持つ（持てる）」となりますね。映像教材は学生さんの興味をかき立てています。では、「話す」「ゆっくり」「もう少し」「字」「書く」「板書」「小さい」「見える」は…そうです「もう少しゆっくり話す（話して欲しい）。板書に書く字が小さい」という要望の集団です。「大きい」「声」「聞き取る」という集団は先ほどの要望の集団とわずかなつながりがあります。何かの要望でしょうか？実際の回答文を調べてみると「声が聞き取りにくい、大きな声で喋って欲しい」などの文がいくつか見られました。どうです？こうしてみると多くの学生さんが何に興味を持ち、何を改善して欲しいかが視覚的にも見えてきますね。このように自由記述欄で、アンケート項目にはない学生さんの要求や評価についての生の声を拾っているわけです。次の機会にはぜひ自由記述欄に一言でも記入して下さい。その一言が授業改善に大きく役立つことになるのです！

さてここで問題。「知る」「自分」「考える」「意見」「言う」はどのような意味の集団でしょうか？答はこの「パイプライン」のどこかに載っていますよ！

2013年度入学生にPROGテストを実施しました！

共通教育実施機構 FD 部会長　立川　明

2013年度入学の学部1年生（課題探求実践セミナー履修者・履修予定者）を対象に、河合塾とリアセックが共同開発したPROGテストを2013 年4月に実施しました。また、受験者を対象とした解説会を5月に実施しました。

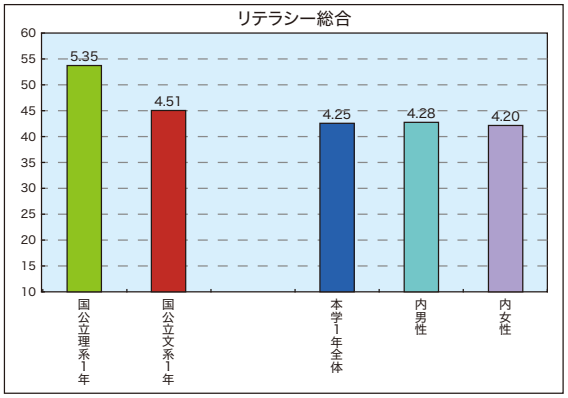
PROGテストとは

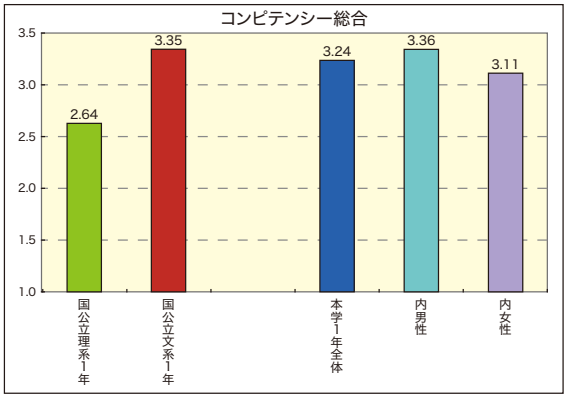
PROGのテストは、リテラシーとコンピテンシーに分かれています。リテラシーは答えのある課題に取り組んで、正解が出せるかどうかのテストで、正解率によって情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、言語処理力、非言語処理力（≒計算力）を測定しようとするものです。一方コンピテンシーは、設定された事柄に対して、どのように行動すべきかを尋ねます。その回答が社会人の思考に近いかどうかを比較するものです。対象とする社会人は20代後半～30代でチームリーダーなどの役付で、部下がいる人たち4000人です。コンピテンシーで測定しようとするのは、大きく対人基礎力、対自己基礎力、対課題基礎力に分けられ、それらがさらに3つずつの中項目に、さらに33の小項目に分けられ分析されます。

2013年度の高知大学1年生の平均

2013年度全国の全受験者7700人と比較した結果、リテラシーは平均を少し上回り、コンピテンシーは平均並みでした。対象となる全受験者には、上級生も含まれていることを考慮すれば、よい結果だと言えます。ただし、国公立大学の1年生だけを抜き出して文系（4.51）、理系（5.35）に分けて対象とした場合、リテラシーは国公立文系よりやや低い（4.25）という結果でした。リテラシー6要素を比較すると、課題発見力が対象より高く、情報収集力と言語処理力が低いという結果でした。

コンピテンシーでは、国公立理系1年（2.64）、国公立文系1年（3.35）と比較すると、国公立文系1年に近い結果（3.24）でした。国公立1年の中で見ると、リテラシーは低め、コンピテンシーは高めと言う事になるでしょう。



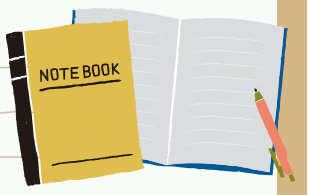


共通教育の取り組みの評価・カリキュラム改善

2013年度に受験した1年生が3年生になる2015年度に、再度PROGテストを受験してもらい、成長度合いを測定することを計画しています。成長度合いの大きなグループの履修履歴を調査するなどして、どのような授業が学生を成長させるかを検証し、共通教育の授業やカリキュラムの改善に繋げられることを期待しています。

編集後記

自分が進んでやらないことを学んで、幅を広げる機会を得ることが大学の良さだなあと改めて思いました。（N）



“共通専門科目”と一言で言っても記者の皆さんそれぞれで様々な考えや感想・アドバイス等があり、大変参考になりますね。（O）

高知大学共通教育広報誌 PipeLine［パイプライン］No.43
発　行 / 高知大学共通教育実施機構会議
編　集 / 共通教育実施機構会議広報部会
〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1
☎088-844-8168（学務課共通教育係）
発行日 / 2014年6月
制　作 / ㈲西村謄写堂
□広報・記事についてのご意見をお待ちしています。
Mail：gm06@kochi-u.ac.jp